

【取組内容】



神楽面彩色の様子

昭和 45 年開催の大阪万博を契機に、島根県西部で盛んな郷土芸能「石見神楽」への注目が飛躍的にあがった。表情豊かな「和紙面」、絢爛豪華な「神楽衣裳」、そして説得力抜群の「蛇胴」。島根県浜田市で生まれ、現在に至るまでこの地の産業として根を張る「神楽産業」を地域の宝とし、訪れる人を喜ばせたいという発想を原点に、産業観光の取組が始まった。

具体的な取組としては、面、衣裳、蛇胴それぞれの工房で見学を受け入れている他、障がいを持つ方が担い手となっている福祉法人では、「神楽ショップくわの木」において、温泉施設に隣接して見学可能な工房を開設し、即売にも対応して、産業の魅力発信に力を入れている。また、観光協会の専門サイトでは、工房を紹介する特集ページを充実させ、アクセスの簡略化を図っている。

さらに、平成 20 年に開館した石州和紙会館では、独自に取組を進めており、店頭販売はもちろんのこと、和紙漉き体験の他、製紙技術をブータン王国に伝えるなど、幅広い取組を行っている。そして、石見神楽を語る上で外せない「石州和紙」の堅牢さと歴史を、浜田市では内外に PR している。

経年劣化により払い下げられた蛇胴は、その強靱さと貴重性を活かし、トートバッグや名刺への再利用が図られており、ふるさと寄付の返礼品に追加されるなど、新たな活用方法も見出されている。

【評価のポイント】

神楽というとその演舞が注目されがちであるが、それを支える石州和紙などの伝統工芸にも焦点を当て、観光コンテンツを作り上げている点が評価された。神楽や伝統工芸等、対象となっている観光資源の高い魅力もあり、銀賞に選定された。

（審査員からのコメント）

- ・石見神楽を支える石州和紙と技術のストーリーがとても優れている。また、石州半紙などの応用技術の可能性開発も素晴らしい。地域の伝統芸能と伝統工芸の卓越したコラボレーション例としても高く評価。
- ・郷土芸能「石見神楽」の上演部分だけでなく、衣裳等から、上演後の再利用までうまく活用しており、観光資源として魅力を感じる。北前船やたたらなど人の交流や商いと神楽との結びつき、自然環境や生活文化との関連などより深いストーリーの発信、オンラインイベントや動画配信の強化、高質な滞在環境やその他の地域アクティビティとの連携発信など行えば、海外のファンづくり、遠方からの長期滞在などを誘発する可能性がある。



手漉き和紙体験